

「歯科技工における CAD/CAM の潮流」
～CAD/CAM システムにおいて歯科技工士が知っておくべきこととは～

歯科界において、CAD/CAM システムを応用した歯科技工術式が、近年になり短期間のうちに導入が始まり、数多く臨床に供されるようになって来ました。歯科界に当初導入されたシステムは、自費対応のシステムが主流であり、多くの歯科技工所に導入されることもなくセンター方式がメインでありましたが、歯科技工業務に CAD/CAM システムが必須アイテムになって来たと言えます。

今日では、ミリング・システムからラピッドプロトタイピング・システムやレーザーシタリング・システムへと術式が拡大してきています。さらに、「オープン化」と言った合言葉が言い表すように、1社のみでのクローズド・システムの対応ではなく、スキャニング・データを他社システムにデータ送信を行い、レジン材、ワックス材、ジルコニア材、金属(合金)材などの種々な材料に対して、術者が求める成形体(加工物)を得ることができるようになってきました。

本日は、現在、歯科技工界に導入されている CAD/CAM システムに関して、臨床現場で如何にして上手く活用すれば良いのか?について、お話をさせて頂きたいと思います。

過去から現在、そして現在から将来へのトレンドにつきましても、演者の私見を交えながらご紹介させて頂きたいと思います。